

☎ 文書館直通 0268-67-3312  
 東御市教育委員会文化財係直通 0268-75-2717  
 📧 メールアドレス bunshokan@city.tomi.nagano.jp

年末を迎えて、大掃除を済ませたお宅もあるのではないのでしょうか。そこで、今回は文書館で所蔵する【家事】に関する史料をご紹介します。

### 【信濃教育會編 家事學習帳 下巻】藤田家文書 文書No.503-2 昭和10年(1935)

これは、縣(あがた)学校(現在の田中小学校)高等科女生徒が使っていた家庭科の教科書です。内容は家庭で作る料理の材料や調理法、被服、育児に関する事で、上・下巻があります。昭和2年8月に初版が発行され、7年に改訂され、8年に再版、10年に三版が刷られ、当館所蔵は第三版上巻と下巻です。今回は、この中から下巻「第十一課 ライスカレー」に注目してみようと思います。

### ライスカレー(カレーライス)の歴史

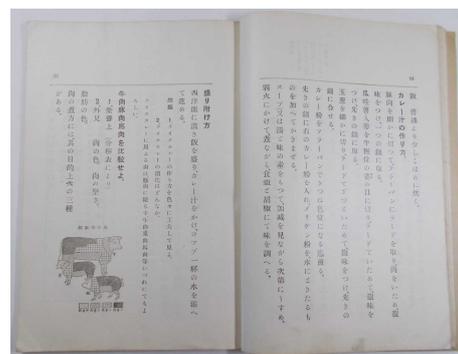
日本にライスカレーが最初に持ち込まれた年は、判っていませんが、明治4年に日本で最初の物理学者となる山川健次郎氏がアメリカ留学の船の中で、〈カレーライス〉を見たという記録が一番古いと言われています。しかし「食う気になれず」とあることから、最初に食べた人ではなさそうです。翌年の明治5年に『西洋料理指南 下巻』『西洋料理通』という料理本で初めてカレーの作り方が紹介されてから、明治26年『婦女雑誌』などにも一般家庭用に作り方が紹介されました。その後、明治38年に国産カレー粉が開発され、明治・大正・昭和の時代と共にカレーは家庭の味として進歩を遂げてきました。

一方で、高級レストランやデパートの食堂でないと味わえない、「高級カレー」をメニューに加え、大人気となりました。麺にカレー汁を掛ける「カレー南蛮」は、明治41年に大阪のお蕎麦屋さんが、「カレーパン」は昭和2年に東京下町のパン屋さんで、発明されたと言われています。

### 【信濃教育會編 家事學習帳 下巻】のライスカレー



藤田家文書 文書No.503-1・503-2 昭和10年(1935)



【信濃教育會編 家事學習帳 下巻】P33

ライスカレーが家庭で作られ始めた頃に、『家事学習帳』は昭和7年に改訂されています。このころは、大阪の東急百貨店の食堂の、ライスカレーが大人気になっています。この都会で人気のライスカレーを、家庭で食べられるように、教科書で作り方を生徒たちに教えたのでしょう。

### 【レシピ】P33 第十一課 ライスカレー（用語文字は原文のまま。〈 〉内は文書館による註釈）

#### 飯の炊き方二種

玄米飯。玄米を洗って、被る位の水を加へ、一昼夜間浸して置く。水加減は、約四割増とし、水加減に注意して炊き、沸騰後充分蒸すことが大切である。

胚芽米の炊き方。栄養上から見て、大切な胚芽を失はぬやうに手早く洗ふ。水加減は普通よりやゝ多く、二割増を欠かないがよい。

#### ライスカレー

材料(五人分)米一立〈一斗〉。豚肉200瓦〈二匁〉。瓜哇薯(ジャガタライモ)二個。人参一本。玉葱一個。カレー粉大匙半杯。

胡椒少々。メリケン粉〈小麦粉〉大匙一杯、スープ五粒。食塩少々、ラード少量。飯 普通より少しこわめに炊く。

カレー汁の作り方。

豚肉を細かに切って、フライパンにラードを取り、肉をいため、塩味をつけ、一つの鍋に取る。

玉ねぎを細かに切り、ラードでざっといため、塩味をつけ、先の鍋に合せる。

カレー粉をフライパンできつめ色になるまで煎る。先の鍋に右のカレー粉を入れ、メリケン粉を水にときたるものを加へてかきまぜる。

スープ(又は湯と味の素)をもって、加減を見ながら次第にうすめ、弱火にかけて、煮ながら、食塩と胡椒にて味を調へる。盛り付け方

西洋皿に暖かい飯を盛りカレー汁をかけ、コップ一杯の水を添へて進める。

ライスカレーに用ふる肉は、豚肉に限らず、牛肉・兎肉・馬肉等いづれにてもよろしい。

### 【文書館展示ご案内コーナー】

★第二次世界大戦後に日本札の絵柄が、GHQ(連合軍最高司令官総司令部)の意向で、平和的な雰囲気にならなくなっていったことをご存じでしたか？ 東御市文書館で展示していますので、是非ご覧ください。



#### ・楠木公5銭札

北御牧郷土資料館移管資料No.963

#### ・梅5銭札

北御牧郷土資料館移管資料No.1023

【五銭札】ご せんさつ南北朝時代の武将、楠木正成公が勇敢に馬に乗って戦っている絵柄(昭和19年(1944)発行)が、くすのぎ まさしげ こう昭和23年(1948)に、右の穏やかで柔らかなイメージの梅の花に変わっています。えがら

#### ・八紘一宇塔の十銭札

北御牧郷土資料館移管資料No.961

#### ・鳩十銭札

北御牧郷土資料館移管資料No.962



【拾銭札】じゅうせんさつ昭和19年発行の八紘一宇塔の十銭札と呼ばれ、全世界を一つの家にするという『日本書紀』の解釈から戦意高揚のスローガンの絵柄が、はちこういちとう昭和22年(1947)に平和のイメージの鳩に変わっています。にほん しよき